

## 釧路教育研究センター研究グループの活動

今回の「釧路教育」では、令和7年度の子ども支援研究グループ、学習指導・開発研究グループ、郷土読本・地域学習研究グループの各活動について紹介いたします。

### 【子ども支援研究グループ】

釧路市子ども支援研究グループは、「釧路市内各小・中学校における子ども支援に関する課題を踏まえ、いじめ、不登校への対応、個に応じた指導の進め方等について調査、研究し、釧路市における子ども支援の在り方について、実践を蓄積しその成果を発表すること」を目的として研究活動を進めております。

本年度、私たちが取り組んでいる研究テーマは、「発達支持的生徒指導について」です。令和4年に改訂された『生徒指導提要』は、生徒指導の理念や考え方を提示し、今後の生徒指導の在り方を方向付けるものです。私たちは、この『生徒指導提要』が示すこれからの生徒指導の方向性、特に「発達支持的生徒指導」の意味と意義について調査を重ね、この理念が教育現場において具体的にどのように実現できるのか、また、児童生徒の健やかな成長と社会的な自己実現をどのように支えることができるのかについて、日々研究を進めています。

現在、全国研究事例の調査・分析や、すでに学校現場で実践されている「発達支持的生徒指導」に関連する事例を集め、具体的な指導や支援の工夫について集約・整理をしています。

本研究の成果として、「発達支持的生徒指導」を分かりやすく解説し、集約した実践事例を盛り込んだリーフレットを発行する予定です。このリーフレットが、教員の皆様の生徒指導に対する理解を深め、児童生徒一人一人の発達段階や特性に応じた支援を進める上での具体的な手立てを提供できるものになればと考えております。リーフレットの完成の際には、ぜひお手に取っていただき、日々の教育活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

今後とも、本研究グループの活動にご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

### 釧路教育研究センター研修講座「不登校対応コーディネーター研修」

5月28日（水）に朝陽小学校で開催された研修講座「不登校対応コーディネーター研修」において、「教育相談の在り方について」と題し、子ども支援研究グループの研究内容について情報提供させていただきました。後半は、教育相談演習として、不適切な教師の関わり方の例を示し、どのような改善策があるかについて協議しました。参加者は、自校の事例と照らし合わせながら、熱心に意見交換をしていました。



## 【学習指導・開発研究グループ】

学習指導・開発研究グループでは、「釧路市標準学力検査の分析結果を基に、小中連携の視点を取り入れた小・中学校の授業公開と研究協議を通して、小中連携における授業の在り方について研究し、その成果を発信する」ことを目的として研究活動を進めております。

研究活動の一環として、グループメンバーによる授業公開や、国語、算数・数学科の授業改善のポイントをまとめたリーフレットを作成しました。年内に各校へ送付予定です。ぜひご活用ください。

### 【研修講座報告】

研修講座名	実施日	場 所	受講者
9年間の学びの連続性に向けた国語科教育の充実	令和7年10月6日（月）	美原小学校 美原中学校	83名

### 講座の内容

令和6年度釧路市標準学力検査の結果から、小学校6年生および中学校2年生において課題が見られた『説明的文章の読み取り』をテーマに、小中連携の視点を踏まえた小・中学校の授業公開と研究協議を行いました。

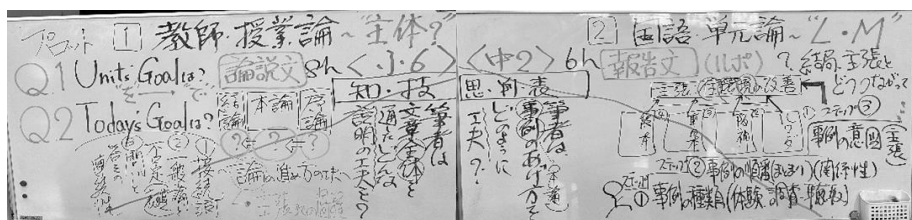
大妻女子大学の樺山敏郎教授から、「学びの文脈に基づく教師の役割」について講演をいただきました。実践例として「ラーニング・マウンテン（L・M）」が紹介され、学習のゴールやプロセスを明確に示すことで、主体的に学ぶ子供を育てることの意義が示されました。また、樺山教授は教師の役割として『IEFCC（Instructor～教える～、Educator～引き出す～、Facilitator～促す～、Coach～問いかけて聞く～、Creator～創る～）』の重要性を強調され、教師は知識伝達にとどまらず、励まし導くチューター、ファシリテーター、コーチとして、生徒の目標に寄り添い、伴走する存在であることが求められると述べられました。さらに、具体的な教材研究の例として、中学校の論説文を取り上げ、内容理解に限らず、事例提示の筆者の意図を分析することで、構成や表現といった文章の構造的な理解を深めることにつながるものご助言をいただきました。

小学校から中学校へ、必要な指導事項を積み上げていくために、①学習のゴールとプロセスが見える化し、子供が自分の現在地を確認しつつ自己の学びを調整できるようにすること、②適切な言語活動を設定するために、緻密な教材分析を重ねること。特に説明的文章では、筆者が主張を伝えるための「Strategy（方略）」を読み取るよう働きかけていく等、小・中共通の取組について学んだ講座でした。

#### ◇公開授業

小学校第6学年  
「ぼくの世界、君の世界」  
釧路市立美原小学校  
教諭 坂本 優一

中学校第2学年  
「紙の建築」  
釧路市立美原中学校  
教諭 奥山 愉美子



### 釧路教育研究センター研修講座「9年間の学びの連続性に向けた算数・数学科教育の充実」

今年度は『平面図形』にスポットを当て、小・中学校における9年間の学びの連続性に向けた算数・数学科の授業公開、研究協議を通して、算数・数学科における指導の在り方について理解を深めていきます。先生方の日々の実践にお役立ていただける講座にしたいと考えておりますので、たくさんのご参加をお待ちしております。

日 時：12月18日（木） 10:10～16:00  
会 場：釧路市立鳥取西小学校・釧路市立鳥取西中学校  
対 象：小学校・中学校・義務教育学校・高等学校  
授 業：小学校第5学年算数「四角形と三角形の面積」  
中学校第1学年数学「三角形と四角形」  
授業者：釧路市立鳥取西小学校 教諭 工藤 智也  
釧路市立鳥取西中学校 教諭 工藤 拓郎  
※追加の申込希望がある場合は、釧路市教育委員会  
学校指導課（23-5189）にご連絡ください。

## 【郷土読本・地域学習研究グループ】

郷土読本・地域学習研究グループでは、「郷土読本を効果的に活用したふるさと教育の在り方について研究するとともに、関係機関と連携しながら、郷土読本『くしろ』の内容の検討を行うこと」を目的とし、研究を進めております。今年度は主に以下の3点について研究・活動を進めてきました。

### （１）ふるさとキャリア教育の研究

今年度は、釧路市の教育目標の一つである「ふるさと釧路を愛し、活力あるまちに奉仕する人づくり」という理念に基づき、中学校3年間に焦点を当てたカリキュラムの作成に取り組んできました。その実践報告として、11月20日（木）に開催された研修講座において「ふるさとキャリア教育」をテーマとした中学校第3学年の総合的な学習の時間の授業実践を紹介し、皆様に本グループの研究内容をお伝えさせていただきました。今後は、本実践から得られた成果と課題を明確にし、来年度以降、義務教育9年間を見通したふるさとキャリア教育の更なる充実に活かしていけるよう努めてまいります。

### （２）郷土読本『くしろ』の編集

授業で活用しやすい郷土読本を目指し、各単元の内容を精査し、内容構成を踏まえた上で、データや数値の更新等、改訂作業を行っております。郷土読本のデジタルデータについても、随時整備を進め、充実を図っていきますので、ぜひご活用ください。

### （３）日本環境教育学会での発表

10月11日（土）、北海道教育大学釧路校で開催された「日本環境教育学会第36回大会」の公開シンポジウムにて実践報告を行いました。昨年度の研修講座で授業公開を行った小学校第4学年社会科「昔から今へと続くまちづくり」（釧路湿原の教材化）の取組について、清明小学校の江渡教諭が報告しました。

当日の発表では、特に実践前後における児童の変容について焦点を当てました。本実践の前後における児童の意識や心情の変容が、主な論点となりました。実践前は、「釧路湿原がどこにあるかわからない」「その魅力や価値を認識していない」といった児童が多く見られました。しかし、一連の学習や現地での見学・体験活動を経ることで、「釧路湿原にもう一度行ってみたい」「自慢の釧路湿原を大切に守っていきたい」といった、ふるさとへの愛着や誇りが育まれました。児童が自らふるさとの魅力に気付き、自分たちの住むまちをよりよくし、地域に貢献しようとする態度へと変容が見られた点について、参加者から多くの賞賛をいただきました。

本実践の資料は、現在、郷土読本『くしろ』に掲載されておりますが、学習指導案、資料等は郷土読本データと同じく、ロイロノート上にアップしております。ぜひご活用ください。今後、郷土読本『くしろ』の誌面に掲載できるよう調整を図ります。

このような活動を今後に生かし、釧路市全体のふるさとキャリア教育が一層深まっていくよう、これからもグループ委員一同取り組んでまいります。



日本環境教育学会での発表の様子



釧路湿原を学習する郷土読本の資料



# 令和7年度 道東地区研究所員研修会報告

日時：令和7年10月3日（金）

場所：標津町生涯学習センター「あすばる」

今年度は、根室地区において道東地区教育研究所所員研修会が開催されました。本研修会は、道東地区の教育研究所が一堂に会し、研究内容や成果を共有する貴重な機会であり、所長部会と所員部会に分かれて実施されました。

北海道教育大学釧路校教授の境智洋氏を講師として、「新しい時代の教師の学び」と題した講演がありました。同校で進められているへき地教育実習の取組、現代の教員養成の実態、そして教員を志す学生をいかに育成していくかという具体的な方策について、ご自身の研究に基づく多岐にわたる知見をご提供いただきました。

所員部会では、子ども支援研究グループが「発達支持的生徒指導について」というテーマで、今年度の研究内容を発表しました。具体的には、文部科学省の『生徒指導提要』において「発達支持的生徒指導」がどのように位置付けられ、説明されているかを解説するとともに、青葉小学校で取り組んでいる行動チャートを基にしたポジティブな行動支援である、スクールワイド PBS（Positive Behavior Support）「北風と太陽プロジェクト」について、実践事例として紹介しました。望ましい行動が増えるような教師の関わりに対して、参加された先生方からは「自校でもぜひ取り入れたい」との声が多数寄せられ、本研究グループの研究内容に対する関心の高さを肌で感じることができました。

今後、さらに研究の質を高め、学校現場でご尽力されている先生方のお役に立てる実効性の高いものとなるよう努めてまいります。



釧路市立幣舞中学校 齋藤 政人

## 釧路教育研究センター

## 教育講演会

# ふるさとキャリア教育の推進 ～ 地域と未来を拓く人づくり ～

講師：文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官  
国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 客室研究員  
東北福祉大学 教育学部 教育学科 教授

長 田 徹 氏

文部科学省の教科調査官として全国の教育事情に精通する立場から、子供たちが自らの将来像を描き、社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を育む「キャリア教育」の重要性についてお話いただくものである。また、これからの釧路市の未来を担う人づくりに向けて、子供たちが地域社会の一員としての自覚を持ち、ふるさとへの「ひと・もの・こと」の関わりを通して郷土への愛着と誇りを育む「ふるさと教育」とこれらを一体的に充実させる「ふるさとキャリア教育」の在り方についてどのように推進していくべきか、全国の先進的な実践事例を交えながらご講演いただく。



■日 時 令和8年2月14日（土）  
13：30開演（13：00受付開始）  
■場 所 コーチャンフォー釧路文化ホール 小ホール  
■問い合わせ先 釧路市教育委員会学校指導課学校指導係  
0154-23-5189